

「ライブ」は楽し

鈴木信好

誰にでも日常生活の中で「ちょっと困る場面」があると思います。私の場合「あなたの趣味は何ですか。」と聞かれる時がそれにあたります。「無芸少食多飲」をモットーとして生きている人間ですが、さりとして「無し」と答える事には、やはり抵抗感を覚えます。

そこで、私は「下手なゴルフと音楽鑑賞」と答えることにしています。しかし、これはそれほどいいかげんな回答ではありません。

私の勤務先は建設会社であり、ゴルフ関連事業も手がけています。そのため、比較的ゴルフが盛んな雰囲気の中で社会人生活を送ることとなり、「月1～2回」のプレーを楽しんできました。尤もその割には上達しませんでした。

音楽については、小4の時にソノシートで初めて聞いた「美しく青きドナウ」と「トルコ行進曲」に感動し、中高時代にはギターをかき鳴らしてフォークソングを歌い、ビートルズに嵌り、FM愛知の開局で聴くジャンルが広がり、そして、大学では男声合唱団に所属し100人近くの野郎どもと合唱を楽しむなど、いつも音楽に親しんできました。

今、あの頃を思い出すと、ステレオも高価だったけどレコードも高かった。確かLPレコードは2,000円。月8回の家庭教師でもらえるバイト代が8,000円でしたから、レコード1枚買うことも貧乏学生にとっては一大決心。失敗は許されないという心境で買っていたことを昨日のように思い出します。そして30年以上経った今「思い出の1枚」として中田喜直の「女性合唱曲集」を思い浮かべるのも不思議な気がします。

以上が「下手なゴルフと音楽鑑賞」の所以ですが、齢50を過ぎた今、これだけではちょっと寂しい。もう少し人並みに「〇〇を楽しんでいる。△△についてはうるさいぞ。」と言えるモノが持てたら、と思う訳です。

そんな私ですが、最近「音楽鑑賞」が進化しこれを「ライブ」で楽しむ機会が多くなりました。また、音楽以外のジャンルにもかなり興味を持つようになりました。簡単に言えば、コンサートホールや劇場・シアター・ライブハウス等に行く回数が増えた、というだけのことなのですが。

しかし、これが本当に面白い。月並みな表現ですが「生の醍醐味」が存分に味わえます。一流アーティストの発する「迫力、美しさ、巧みさ、緊張感」といった「瞬間の美」を全身で感じるすることができます。

私が、このような「ライブの醍醐味」を再認識したのは、数年前に「落語」を聞いた時です。その当時、私は東京で単身赴任していましたが、ある日、あの新宿の「末広亭」に行きました。私にとって初めての寄席体験であり、それなりに楽しんでいました。しかし、最後の「とり」の落語家の噺に最初はガッ

カリさせられました。というのは、枕の部分が終わり噺の本題が始まりますが、その時の演目が「時そば」だったからです。例の「ソバ代を払う場面で、いま何時だって質問し勘定をごまかす」噺です。こんなストーリーの分かりきっているネタか、運が悪いなど、ガッカリした訳です。

ところが、「とり」を務めるような力のある落語家の噺を生で聞いてみると感じが全く違います。引き込まれるわ、引き込まれるわ。ストーリーは分かっているのにどんどん引っ張られていきます。一つ一つの動作も臨場感や大きな空間の広がり感じさせます。これが話芸か、伝統芸能の持つ奥深さか、と思いきり知らされました。あらためてライブの魅力を再認識させられたように思います。

私が今このように幅広く「ライブ」を楽しんでいるベースには、世の中にある「本物」を少しでも多く「本当に知りたい。味わいたい。」という気持ち、野次馬根性と言いましょか、旺盛な好奇心があるからだと思います。そして、一度しかない人生ですから少しでも多くの豊かな時間が過ごせたら、と思っているからです。もちろん、子供が社会人となり、夫婦での自由な時間が取れるようになったことも大きいと思いますが。

最近楽しんでいるものは、クラシック音楽では名フィル、ソプラノ歌手のコンサート。ミュージカル（劇団四季ほか）、ポピュラー音楽（久石 譲、ユーミン、綾戸智絵、女子十二楽坊、吉田拓郎、某男性 6 人組アカペラグループ等）、歌舞伎（年 2 回は御園座で。市川海老蔵や坂田藤十郎などの襲名披露公演はやはり賑やか）、演劇（森光子の放浪記はラストチャンスと思い。とても 8 6 歳とは思えない）、落語（松坂屋特選寄席で年 3 回。各独演会、大須も適宜）、京劇（中国から年 1 回は来日。豪華絢爛。不思議な発声法）等など。そして、何かの折に見る小学校の鼓笛隊なんかも結構好きです。

こうして振り返ると、名古屋でも結構色々なジャンルのライブが楽しめることに気がきます。先日の中日新聞にプロのオーケストラの都道府県別年間公演回数が載っていましたが、愛知県は 8 8 回。東京 6 0 2 回、大阪 2 0 0 回、神奈川 1 1 9 回について 4 番目の多さです。人口の違いを考慮すると、いつでもクラシック音楽が楽しめる環境にあると言っているのではないのでしょうか。

今後ともこの名古屋の地で更に幅広くエンジョイしていきたいと思っています。具体的には「オペラ」「バレエ」「宝塚歌劇」「能」「狂言」などで「寝るか、感動するか」勝負してきます。そして、こうした「ライブ」を楽しみつつ、自分で何かやるといった類の趣味も見つけていければと思っています。

そう言えば、NIMRA 30 周年記念イベントの今日、2006 年 11 月 23 日は午後 5 時 30 分から「吉田拓郎」のコンサートが名古屋国際会議場センチュリーホールで行われます。この 30 周年イベントがなかったら、きっと行っていただろうなあ。イスから立ち上がり体でリズムを感じ、曲によっては振

りをつけて大声で歌っていたでしょう。いわゆる「ノリノリ」ってやつで。